

普及現地情報

発信年月日：令和元年（2019年）5月7日
所属名：甲賀農産普及課
番号：C19003
部門分類：130（工芸・特用作物）
発信者名：竹若、瀨谷

今年度の一番茶の生育状況について

4月上旬の低温の影響などにより、今年度の一番茶の生育が全般的に平年より遅れています。当課では、気象変動に対応するため、モニタリング茶園を5カ所設け、茶園の生育状況に応じた茶園管理ができるよう、関係機関と協力して情報提供を行うことで、品質の良い茶生産につなげる取組を行っています。

今年度の茶業指導所の作況園における萌芽期は4月13日で、昨年度（3月31日）より13日、前5カ年平均（4月5日）より8日遅くなっています。

当課が行ったモニタリング調査の結果では、例年生育が早い茶園ほど生育遅延が目立っており、萌芽期が前年度より7～10日程度遅く推移しました。一方、晩生品種や例年一番茶の摘採が後半になる茶園は、平年並かやや遅い程度で順調に生育しており、例年より早場と遅場の生育差が小さくなると予測されます。

以上のことから、①例年と同じ順番では摘採できない、②摘採適期が集中して特に後半の一番茶が刈り遅れで品質低下するおそれがあると判断し、当課では有線放送等により、①ほ場巡回により新芽の生育状況にあわせて摘採計画を見直す、②一番茶後半に摘採予定の茶園で直掛け被覆を検討するという内容で対策を呼びかけました。

当課は今後も関係機関と連携しながら、生育状況や摘採状況を把握し、良質な茶の生産に向けて支援を継続していきます。



モニタリング茶園での生育調査の様子



例年生育が早い茶園ほど遅れが目立つ
（土山町今宿 4月20日現在）